春雨草

へ13
3793
2

源氏川柳
七偏上

門へ13
號3793
卷2

我朝戯作の肇創と唱へ源氏物語の此系式部が筆ぜ
ひるまとど雨夜の品定ゆゑ女子の身ぜ人情と書ばくー夕
白の浮気心ゆゑ化物出で怖ろけ御息所の意地張ゆ盛場で車
宮ゆ恋路ゆ油断ゆ才能ゆ恪気と嗜せ猫掻ゆ妻でゆ女三の
ゆ琴ゆ茶ゆ浮ゆ趣ゆ婦女を論せ文章ゆ書ゆ彼書の
ゆ葛ゆ蒲ゆ芭蕉ゆ難ゆ似ゆ若草ゆ観音ゆ利生ゆ筋ゆ替ゆ通夜
ゆ鞍馬ゆ暗ゆ禍ゆ変ゆ幸ゆ成ゆ佛ゆ智ゆ方便ゆ神通ゆ力ゆ竜
ゆ口ゆ長谷ゆ畸ゆ童ゆ飼ゆ牛ゆ引ゆ出ゆ
編を延して千代の春け慰草ゆ見ゆ色ゆ摹ゆん
よろこびあづく
ことのそれ春

緑亭川柳述

秋ふかきこゝろの香を
あるあるじの秋くがまて
かくみのゝそる色ぶかも
うせて出ひのまきもえ
るこゝ世の中はきこゝふ
つむ秋ゆのたゝ
さえとろとろ是ゆく
この月かあんと
るべき

秋風
かき彩る
琴の音
さそ
ふ人の
こゝろ
かるらん

[つぎの]ちろまさ
ゆうきをきけるかとこんもまこが
一おのづからふかきを
あけるやどりうる
たちくとき
あさうねふこりと
ごものさぬけきさま
るごあるまこつ
やぞ山ごりの日
うぞのくそうえんとり
てくまわるべくと
ときをのこたち
ころまけりかこそら
ろいこころづきそ
山ごりりのあけの日
うぞくそくきこへれん
あるのはろれをこぶ
らひつるひのりのを
かうろのこそこふたそまろり
きあこきこあるどあるろ
山どりりのろしぶあるこれを
わどにかうこあろらのぞこるこ
りとぶをあれこそれくふ
きあるぶこをあろけれ
びとろこぶとひとろこ

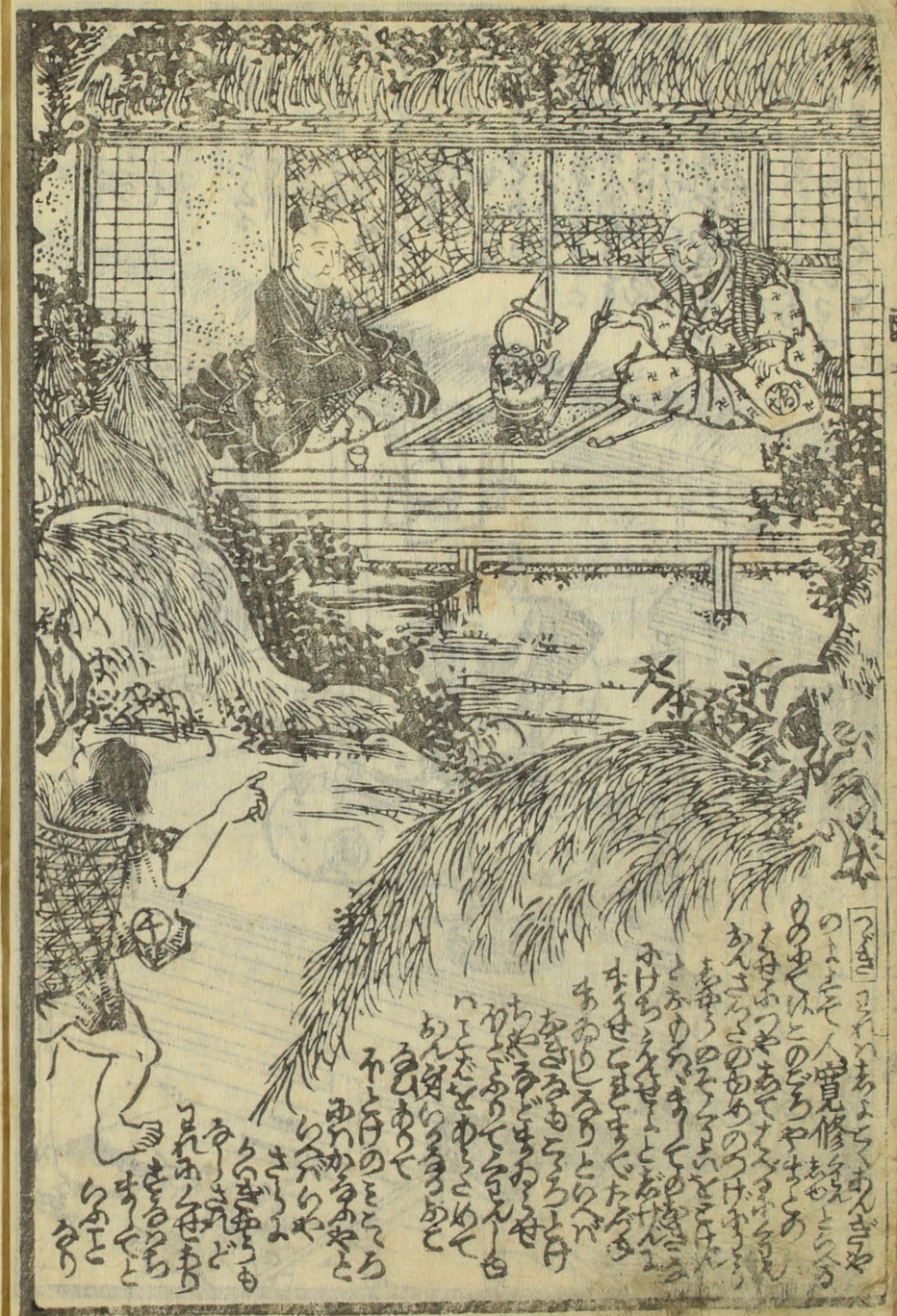
[中左のよう]あきこみ
きそこれもよる
ぶるいめるれが
人をんとこむ
ちろこるりかん人

あきこいへとりして
ろりあわぎそう
しあまきこの
きこあどろゆや
こぶしてろく木の
ちをこきあこて
けるをあきこぶ
これをこそこえぶ
ぶ木のそのちる
をそるあ
人のう
これろり
ちるい
ろこあきこて
そあくこと
ろしわぶ
きたびそ
ろくこきろふ
あそきいろ
ん人ところ
きこのの
ちこてこ
ろこ人
きく人むこ
あきろこと
ろくくん

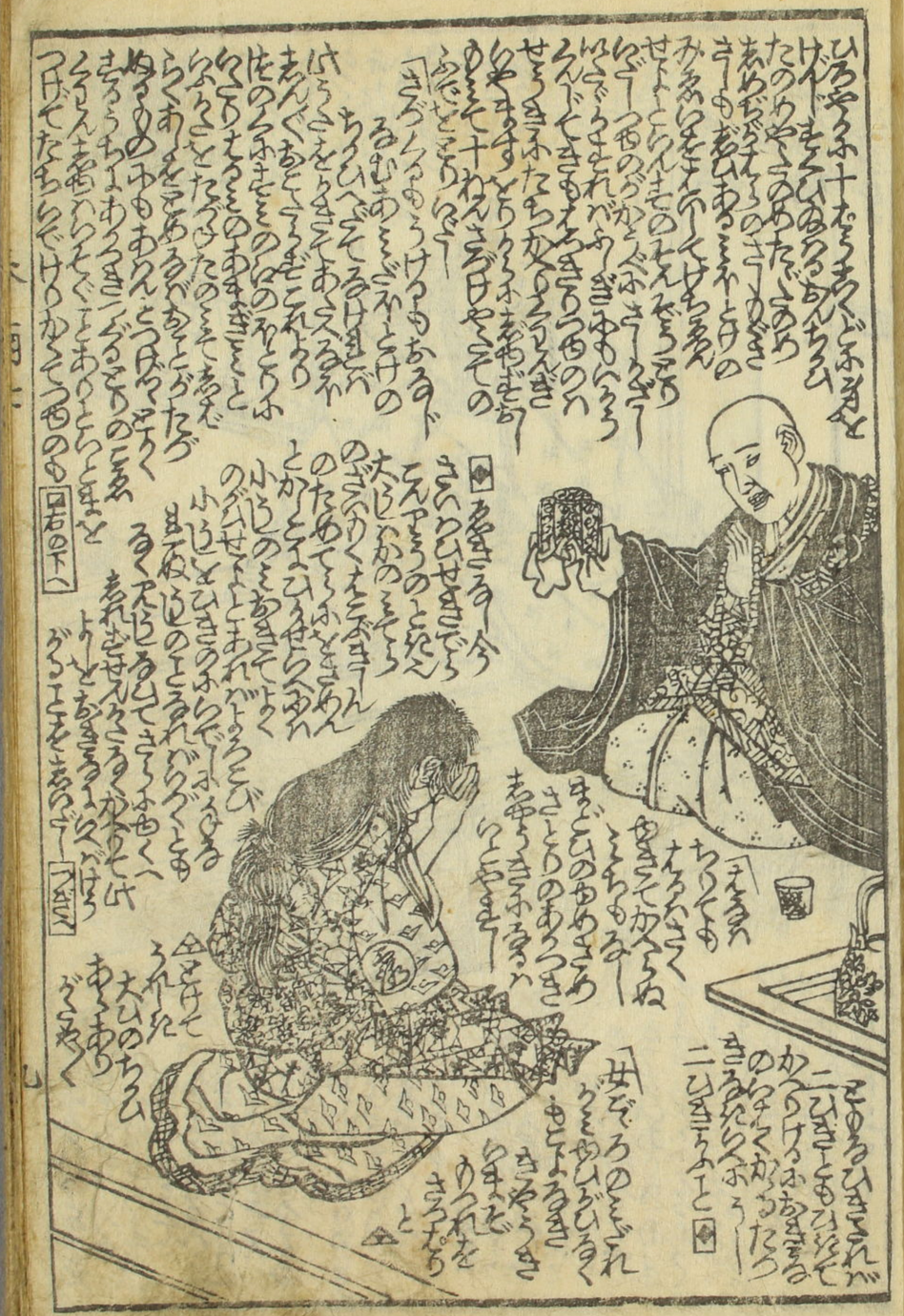
[つぎの]

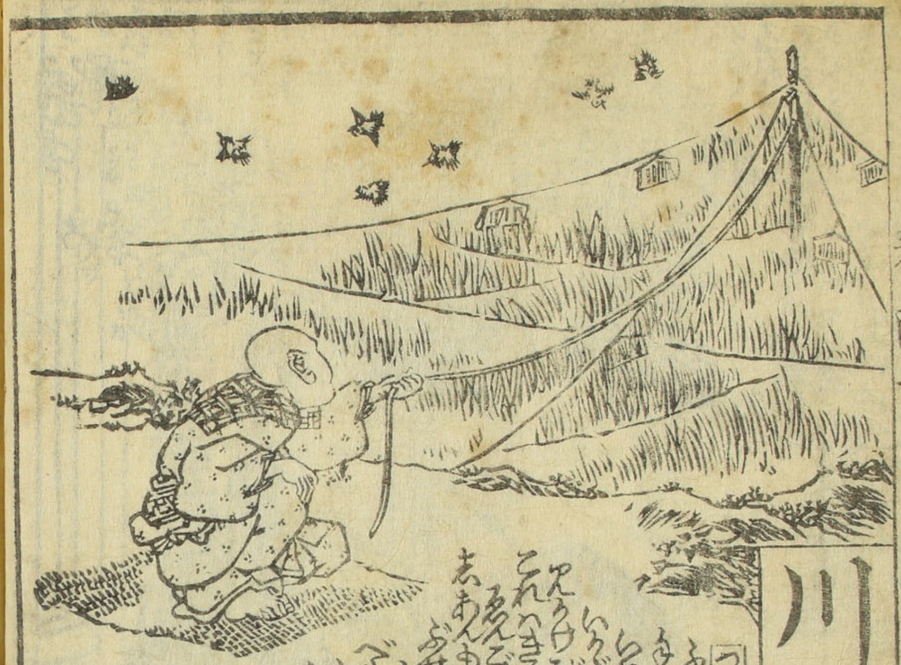
[つぎの]名とき
とうふあのこのふかさ
山さこえひとりの
あきこありこれと
田をつろんころこぎ
のこせるこぶをしてい
きあるこぶもせき
ろとけのこちをあ
とこあけうまわぶろ
のこをこえてようふ
ろこをせぎりしが
ある日十文ばろの山
ろこびひとりきそ
ろれいやきこんせの
りのゆそ千れと
ろふころゆそんぶ
まびこふあきそあ
れとろゆそ

[中右の下へ]



つづき





川柳作 豊國画

つぎ

のろーあひをうしろひあとりのりだを
あさもるくあきまそてあせれどせんそさるく
ものうちのをうしろいそのよいびくふも五月
ふいをあーよく日ふろくもあくもる
いろぶいせんとちりふくちまへをとりふをけへ
えろけびんせんのことたのこーふふさのりのらけへ
これいきうまくやくあひまりかえのるやとらけりるふ
ふいあももあるれどくひのりのるきまをふあんとり
ぶぜんのくふふはきふけう五まけりもびくふも
くぶふあれどまとーのたくくもるくらくふかる
べきくもできぎ五まけいきうとまあんを
きくめめまうくまををひき田だこのとりをあのりよ
をまうーるまををひき田だこのとりをあのりよ
うやとりーそのまろくらぐらのせふまりもそ
ろくふちくくかりくるかのびくふいまぐこゆも
にぬくまちふたびてつろ州をゆく女ふ
らんとみちびきーむくらくふの見ぐ
うらんを見とるらを見ることをこのて一まくう
るーむとらんぐるとてきめんのぐうを
ろどくくへてまろべー

神傳 油藥 祖香

秘方

一貫代 四十八銅 二十四銅

錦耕堂製

[illegible]

美人
草紙
七夕
一源氏豊國画
錦耕亭

花合せ
春の部
門松あらし
ろくまろこのく
梅むろ
二十四
山の内の部
七番
下

下ノ
河太良
ゆてはうり
らぜちろてやせー

あと
川へ

彩供宮

西

上の段
山かの

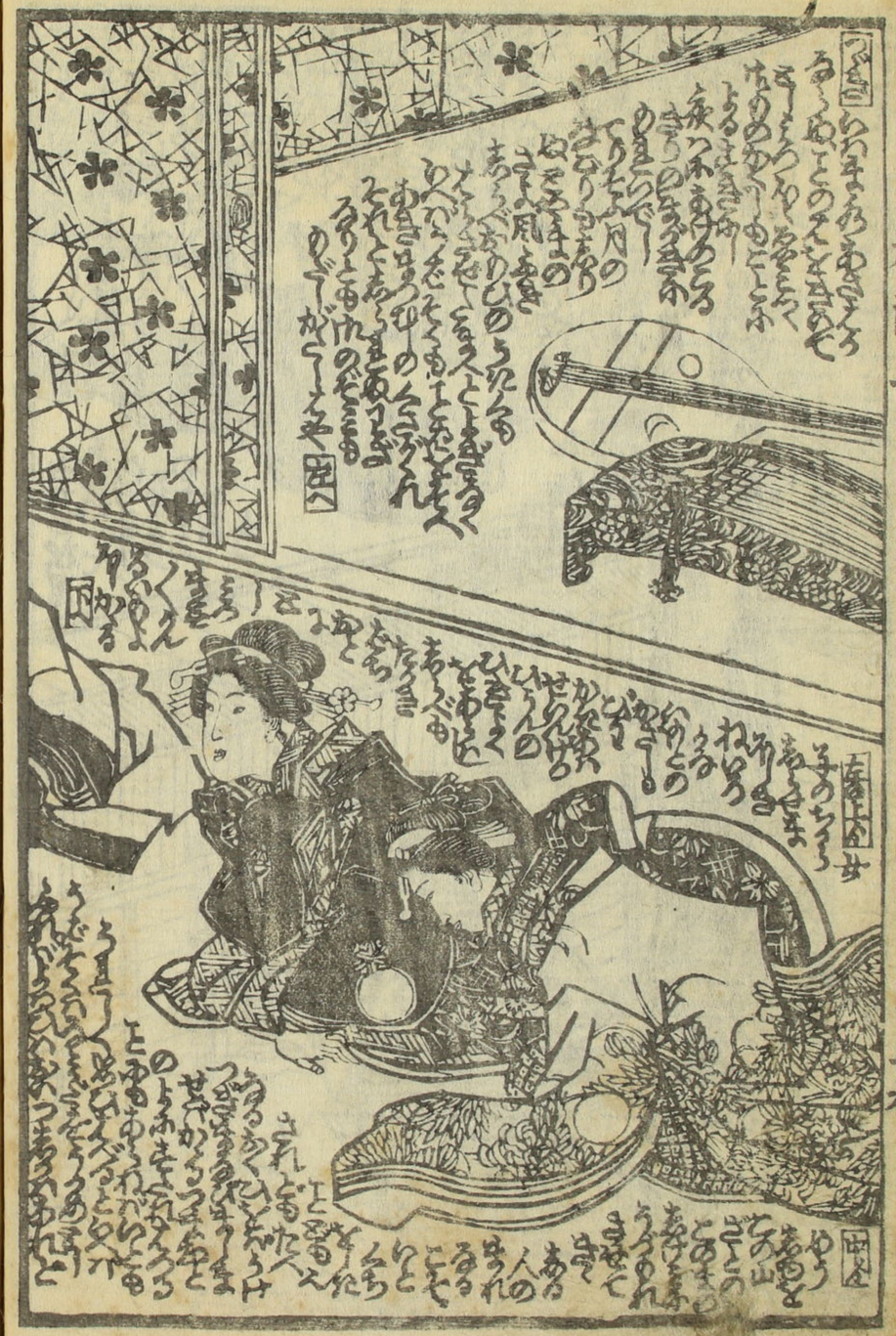
右の段
川上の

つぎ三人のめのどもそれらこれらぶちとせーとさこれへくへーてのうれとらふとものさらふれさうぬ子
ゆらんへうるきものをりけわか二人のめのどもらきまるこしひさごをなりふとらんとまるをそう六
いうりてつきたりまさへまくかのれらぬきんそうんとそとちらさうまぬゆわのめうとらんへがを
やうるふれたくうちぬすくうれかのまとらるうとちらのさうをぬまくてうら

左の上

けんうのやうまれまうねども
そうさをうこれらふはうさまとよさーーのたうのいあまうまんーのうゆもまうくあろうんときいたんまれがよまうれとそれわまうはてちづまれがようまうえ
大きうよろこてうるまくゆたんたもみうくちびうこそのまくゆたんたもうーかうもいひげそのうくゆてううをうえ
せーあうーとーてかーとえうーうてーたののまうんてまうどうてーきぬくときぬくへとうりうしゆうとあうりさけうろ
らわはまてしく
○とうふあちせんのうくーあちーたうのたうふさとうの人あうてとうーとうろちうふあうまーくあうてせどみ十さうふあうぶまてひとうもふあけまたうまうのいりとと子としてやーうひけうふゆあまりてらうらあまうとうりてたのうふまうこのねのれーとりふありてまーこうもへうぶまたがたーうろうくあうひ子のうきーとうとうーとてかものやーうーうさせたをかけうふとうそ子をひとううろけのうれとかのやーうろふのうちうるゆひさーくあうる日うものうくうえけのーてうーうげかうーうのあうげふうぶひう一ツ

へべさまあ又さあ又ことあくとうつのうりんうとうとうと



一陽齋豊國画　緑亭川柳作

嘉永二年己酉孟春新板目録

遊仙窟春雨草紙　六編八編　緑亭川柳作　一陽齋豊國画

秀稚百人一首　袋入　緑亭川柳輯　諸画工集筆　一冊

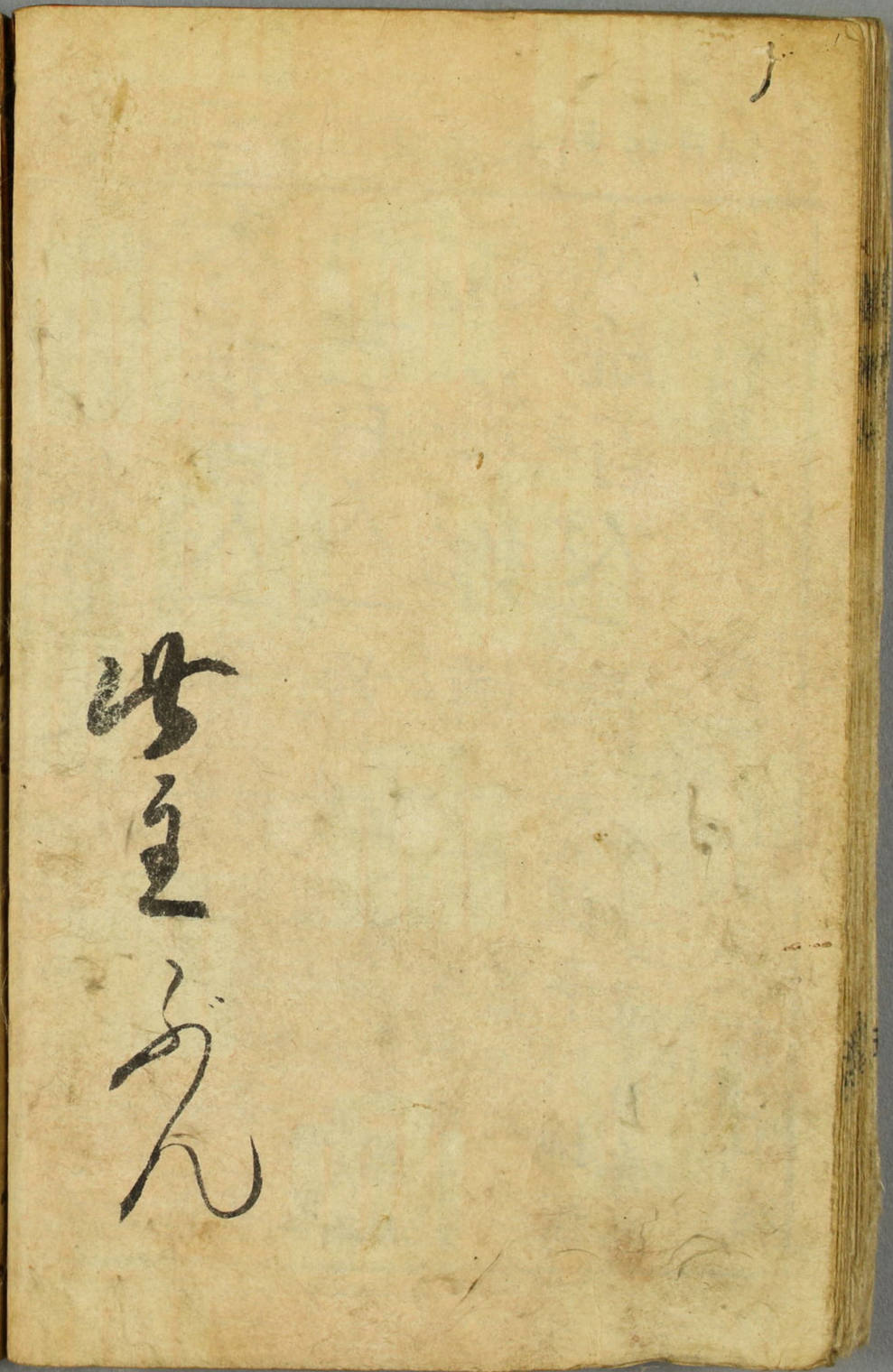
列女百人一首　袋入　緑亭川柳輯　葛飾卍老人画　一陽齋豊國画　一冊

新編柳樽　全二冊々　初編より九編まで出来　餘編近刻

英雄百人一首　袋入　緑亭川柳輯　一冊五雲亭貞秀画

東都書肆　馬喰町二丁目　版元　山口屋藤兵衛

姫手ノ御心
八節上

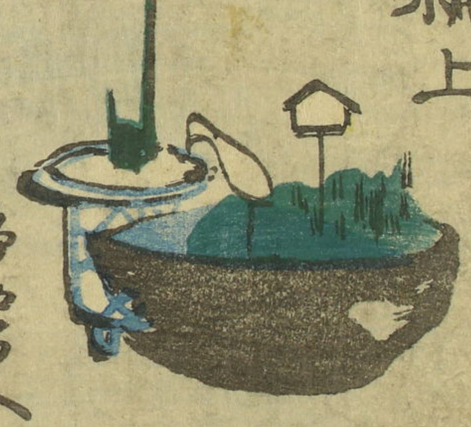


遊仙皆　八編上

春雨草紙

川柳作
豐國畫

庚戌
新版



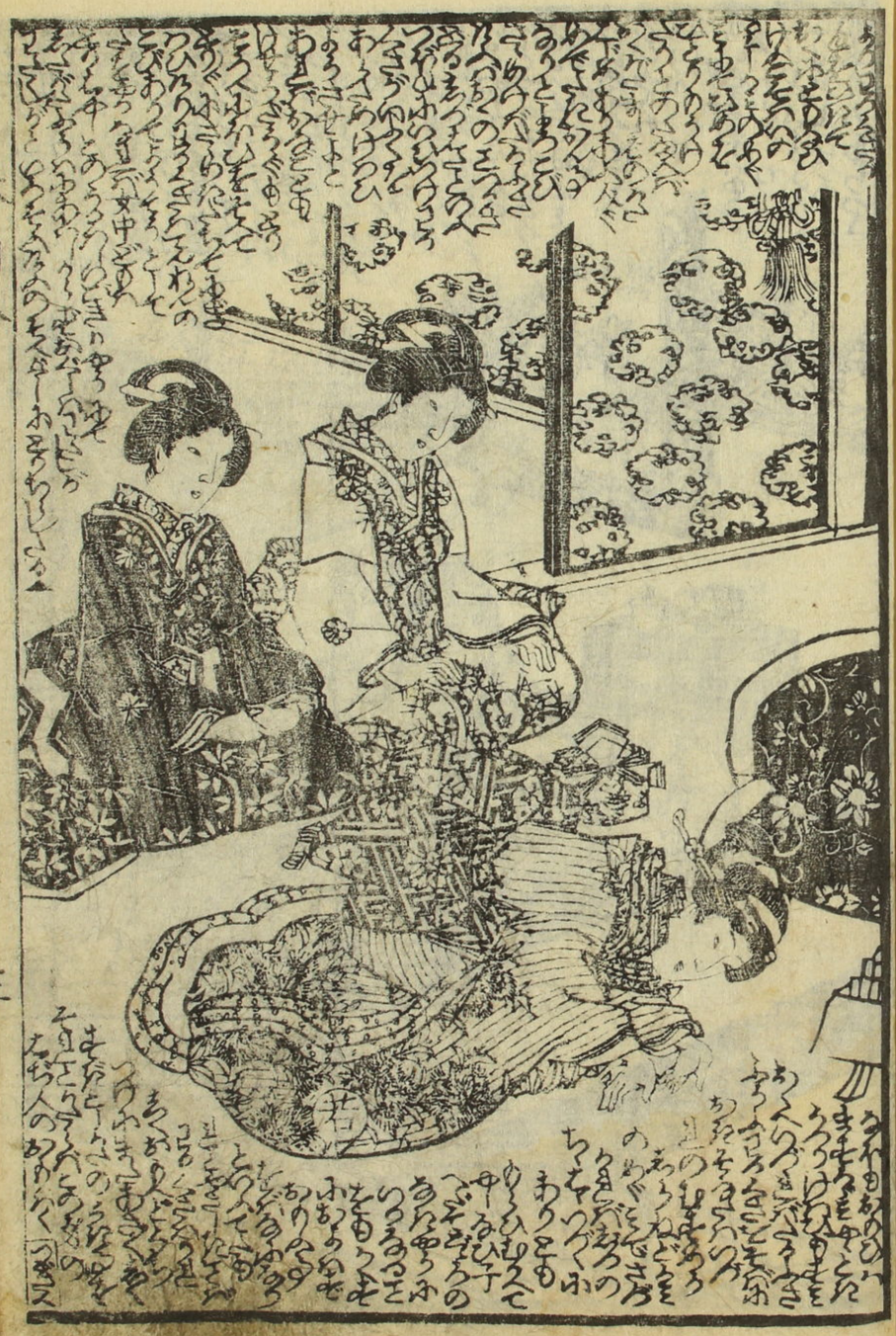
新版
錦耕堂梓

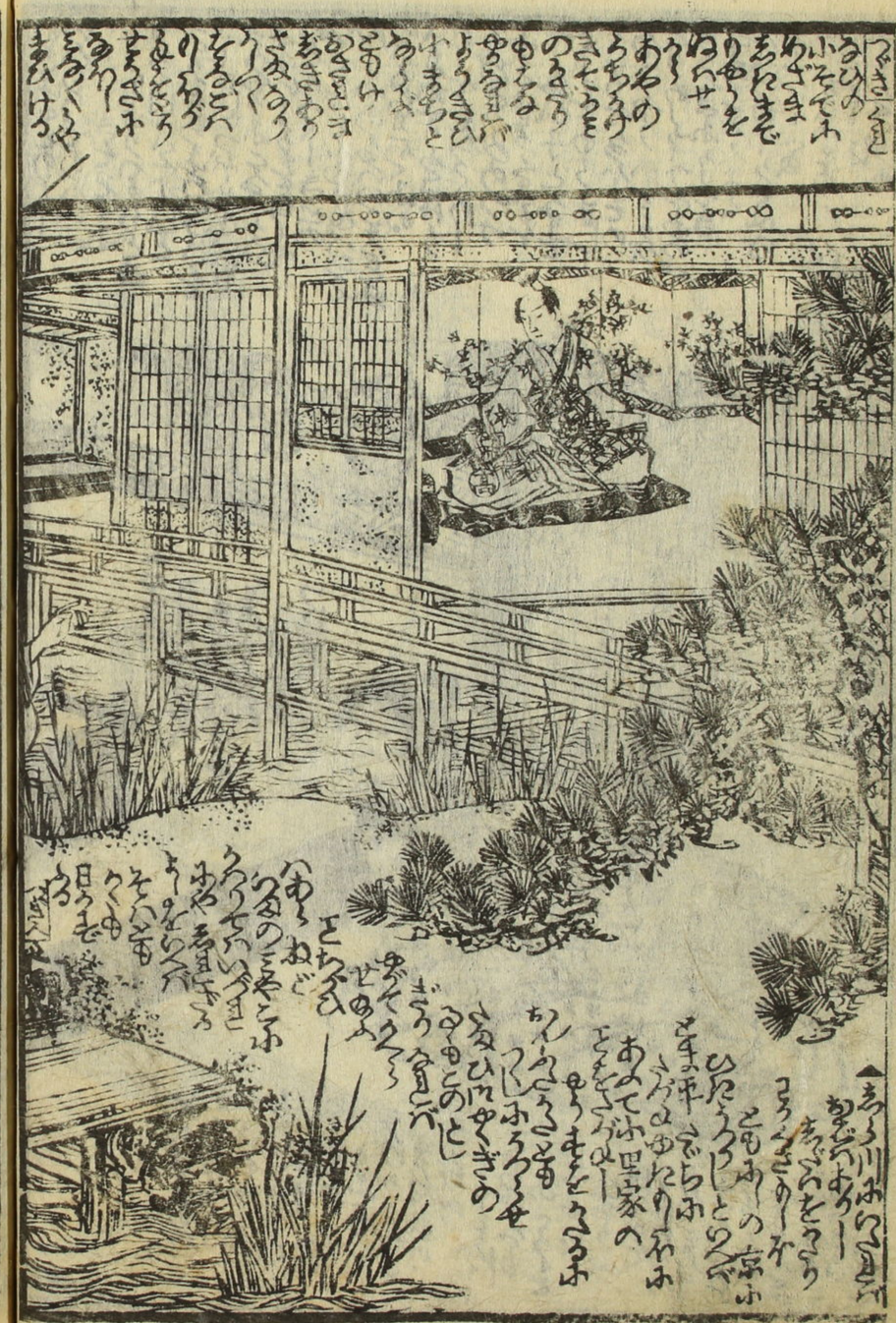
王祥氷ゐ伏て魚踊り。孟宗雪ゐ歎て筍を得しろ。旬を待ぢ物を調味するとこそ。今大江戸の自由ゐ寒中ゐ鯉筍絶るとろく。初夢のころ茄子ゐ喰れべ。孝行尽すぢ此時ろべ。さるど支足ゐ四ゐ人情奇を好こぬ也。自然食類製法変ぢろ。献立ゐろ餅の入ぢ花暮露菊形ゐ散うせて。饅頭の米ゐ市と共ゐ田舎へ翔き腹太時ゐ丸てとぐゐのちとあり。今坂當書ゐ自似て形長く。吉撰ゐ衣着て口取ゐ出まべ業平ゐ梅見土産とろ。魚好ゐ毒とゐひ一魚ゐ。茱ゐ類して早く味ひ七十五日の毒命を延一。踊子骨ゐ入てたやまべ料理茶屋で目安の札ゐ出淡雪ゐ解て寝るころ費ゐ来て。流行さゐぐふう稗夫ゐ又時世ゐ移り源氏芝居竹取るど翻譯ぐの合ひ。弁理昔ゐ倍知くゑれど酸ゐ井ゐ兼知の子供衆召て作意を味ひて旨と斗の詞を

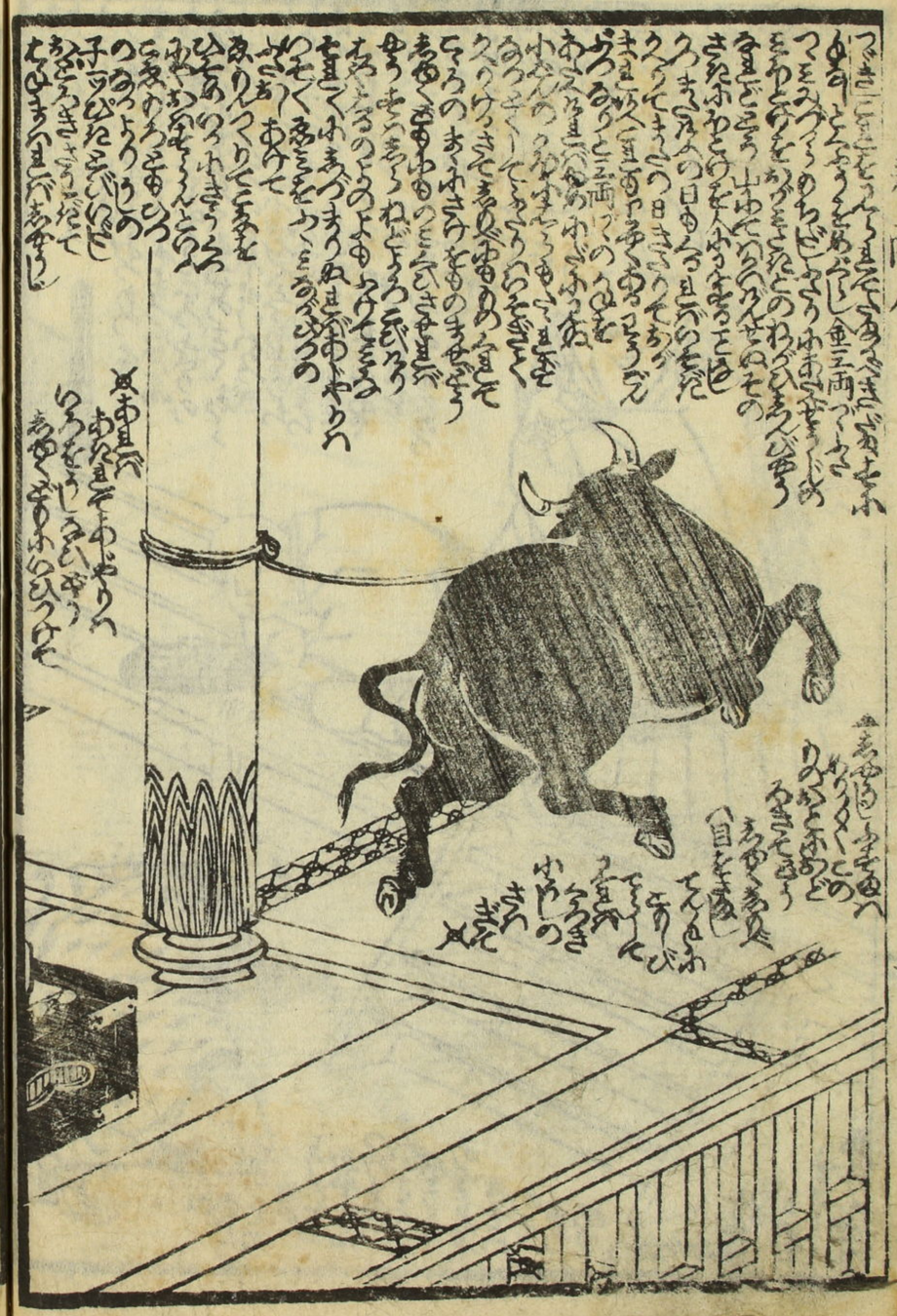
嘉永三戌立春新版

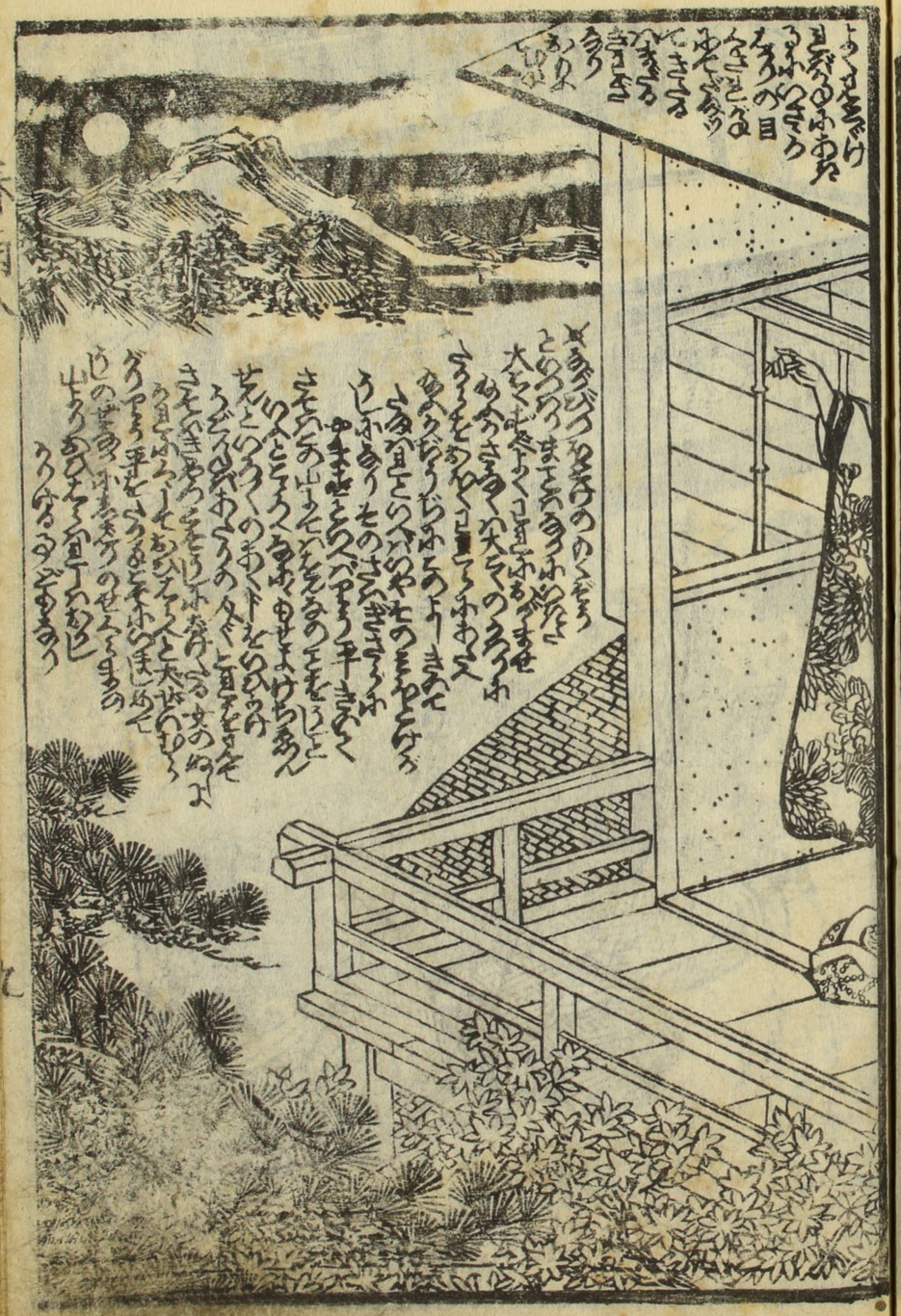
緑亭川柳誌

しばらくの間とて
ありそうなどうはし
ぬみまぐらせる
春の山みち









川柳作　豊國画

文久二壬戌年新鐫藏版目録

遊仙沓春雨艸紙　十九編　緑亭川柳作
二十編　一壽齋國貞画

田舍織糸線狹衣　五編　仝作
六編　同

父漢土　母和朝　國姓爺一代記　中本三編　初編ヨリ三編マテ切讀　假名垣魯文編
歌川芳直画

月宴更科譚　二編　松園梅彥作
三編　一勇齋國芳画

天神一代記圖會　中本一冊　柳下亭種員著
一勇齋國芳画

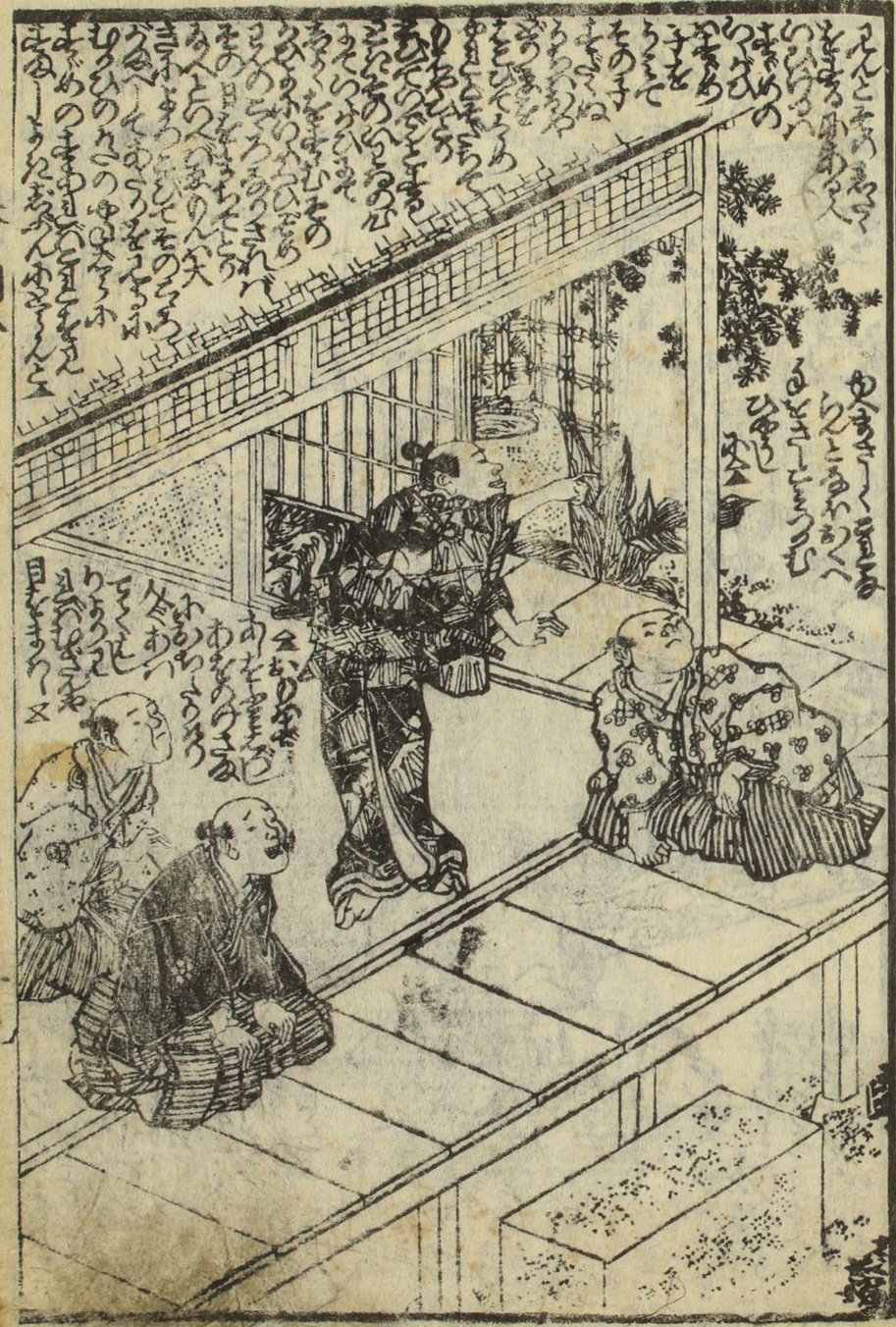
容色仙代萩　三編三冊　一筆菴英壽作
讀切　一雄齋國輝画

東都書房　馬喰町貳丁目　錦耕堂藏板

倫為必孝也
庚戌之春
八角い

夕

若
賤
賢



藏版新刊珍奇雑書略目録

陸東太郎後世譚 九編 西馬作 十編 貞秀画

岸柳四魔談 四編 同作 五編 國輝画

乘合噺 七編 柳下亭種員作 八編 一壽齋國貞画

詞花萱草紙 初編 墨川亭雪麿作 二編 一雄齋國輝画

初昔見聞浙紙 二編 有人作 三編 芳盛画

今様八犬傳 七編 春水作 八編 國芳画

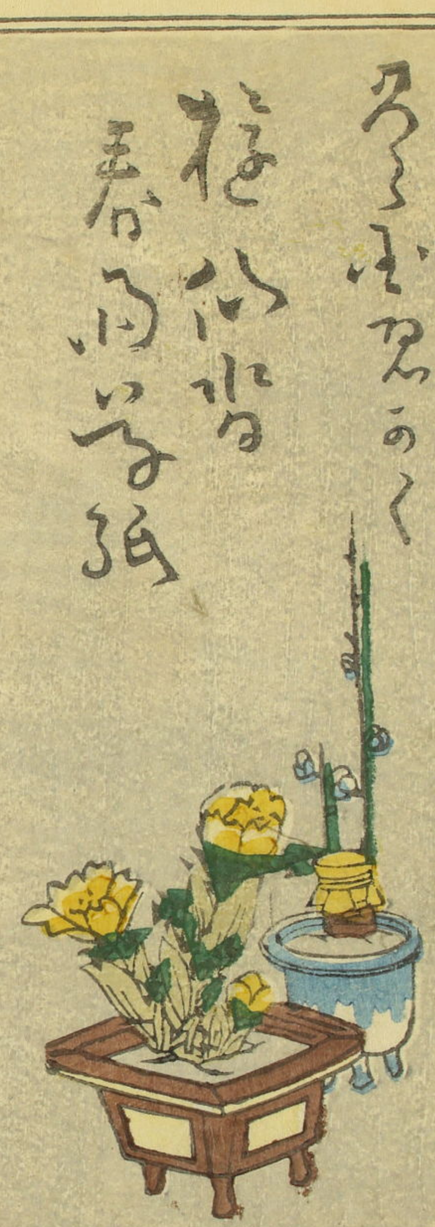
俠像水滸 俠銘鑑 三編 西馬作 四編 國輝画

伊賀越仇討 樂亭西馬作 一鶯齋國周画

松園白妙譚 二編 泉成作 三編 國明画

書物地本繪草紙問屋 東都馬喰町二丁目角 山口屋藤兵衛

緑亭川柳作

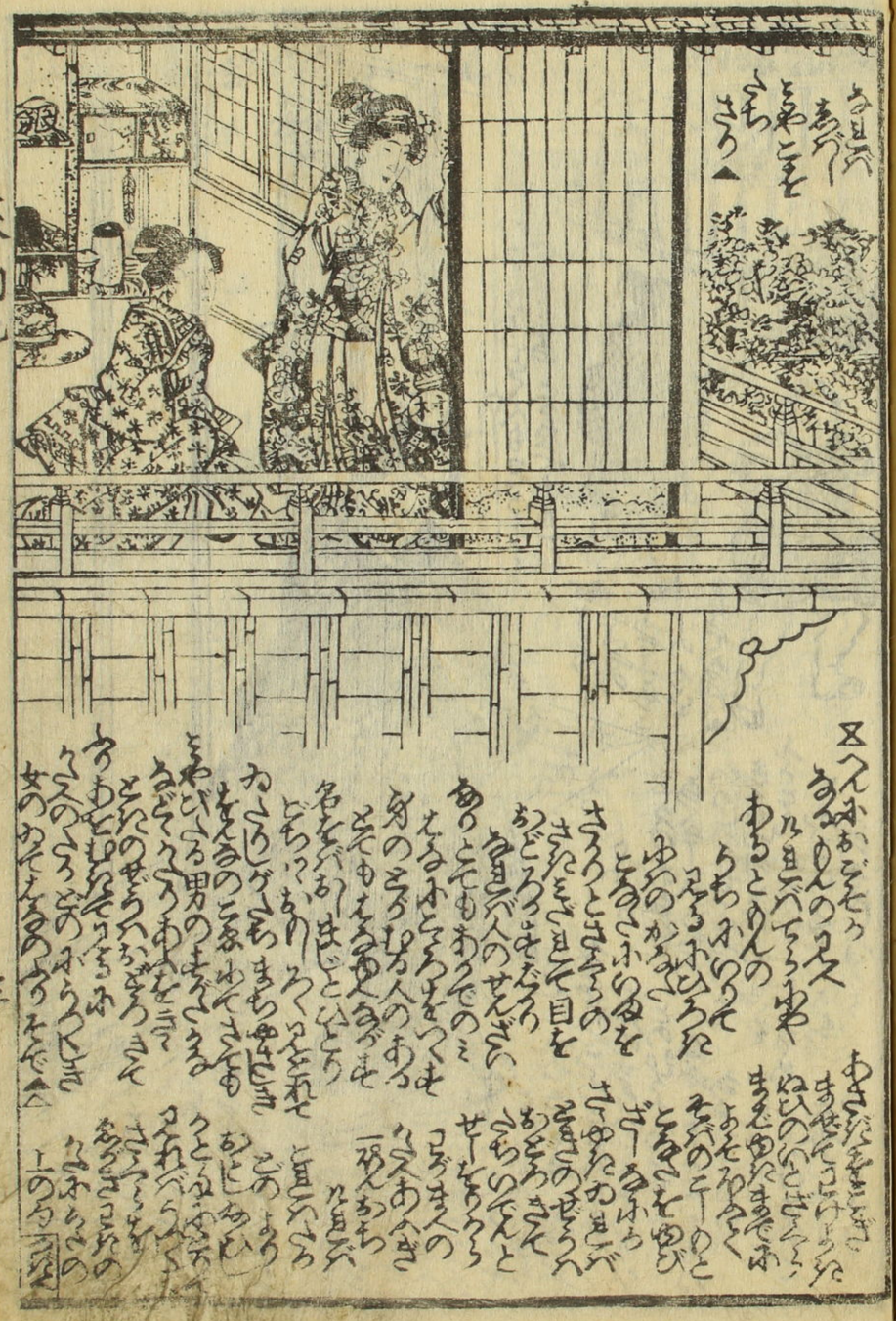


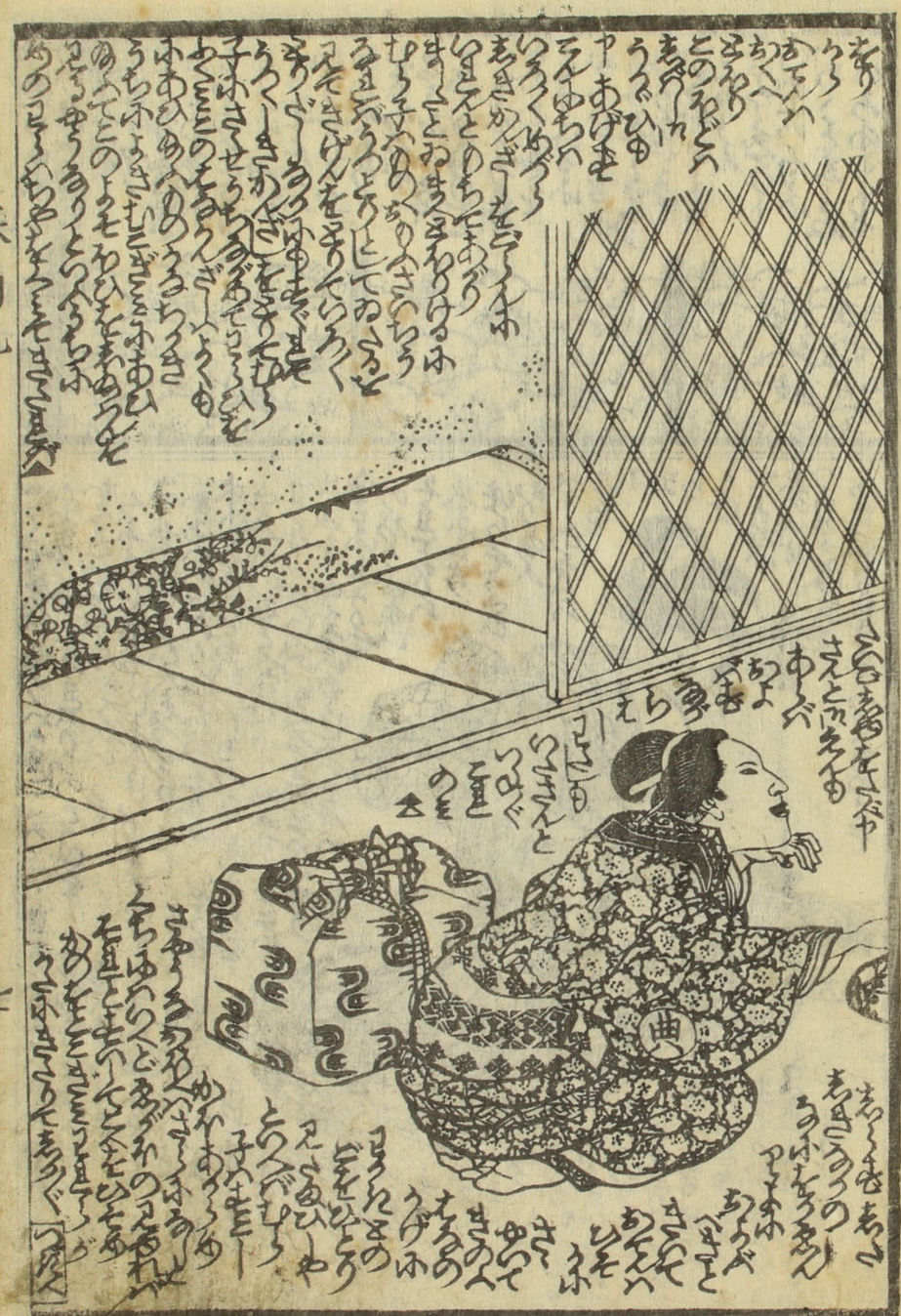
遊仙窟春雨草紙第九編

遊仙窟の窟の字は履物の沓より替ても。柳筥へも乗らるゝ程ぞ。蹴込まるゝ程ぞ。長明の劇談履を見て月見花見のぞかちらるゝ。雁鼻沓加茂沓の雲井の古へも藏より入れば沓あるべし。其理徳をいそぐ。沓は拾ひて兵書は會得し。馬の沓で解脱の繪ぐ這出し。翡翠八簪より名あれど。沓手鳥わぐ風流も閑なれど。寒く凍て暖むろ八烏帽子魚より沓鰍鰊。沓元來軽き物ゆゑ思ふ所へ早速よ流れん。稗史の振れ景ふ似て。時代と世話の高低は直ゝ平均ゝ教へ道召よく作て早足ゝ歩形よく出るゝよしと。窟と沓ゝの履違兼相と頗る理屈みて。手前勝手は言訳なれども沓々笑てゝ

嘉永三庚戌初春

緑亭川柳





村

山

秋
典

安政七庚申年新鐫藏版目錄

遊仙皆春雨艸帒 十六編 絲亭川柳作 十七編 一壽齋國貞画

田舍織糸線袂衣 五編 仝作 六編 同画

政談國盡 初編 仝作 二編 一雄齋國輝画

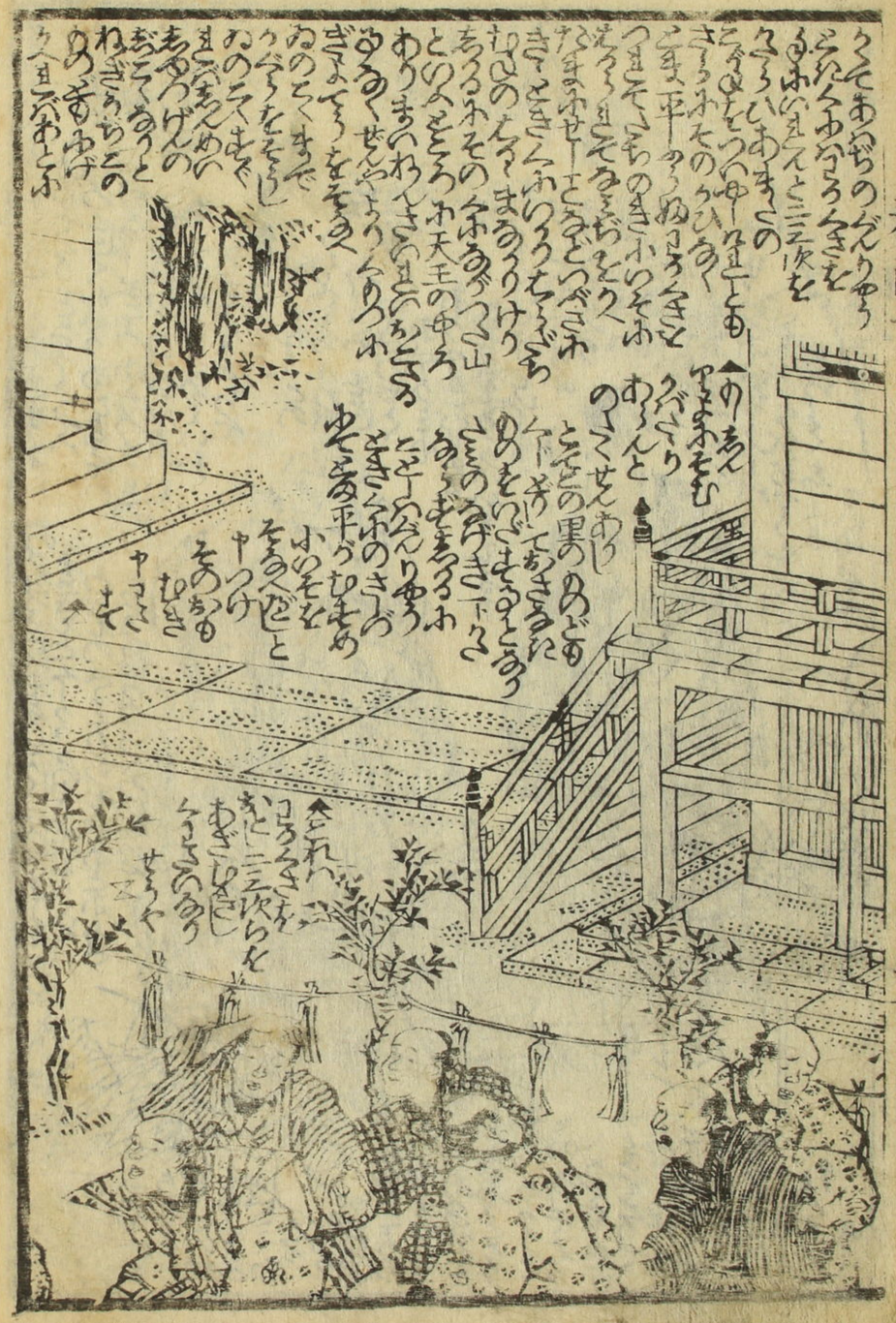
月宴更社譚 二編 松園梅彦作 三編 一勇齋國芳画

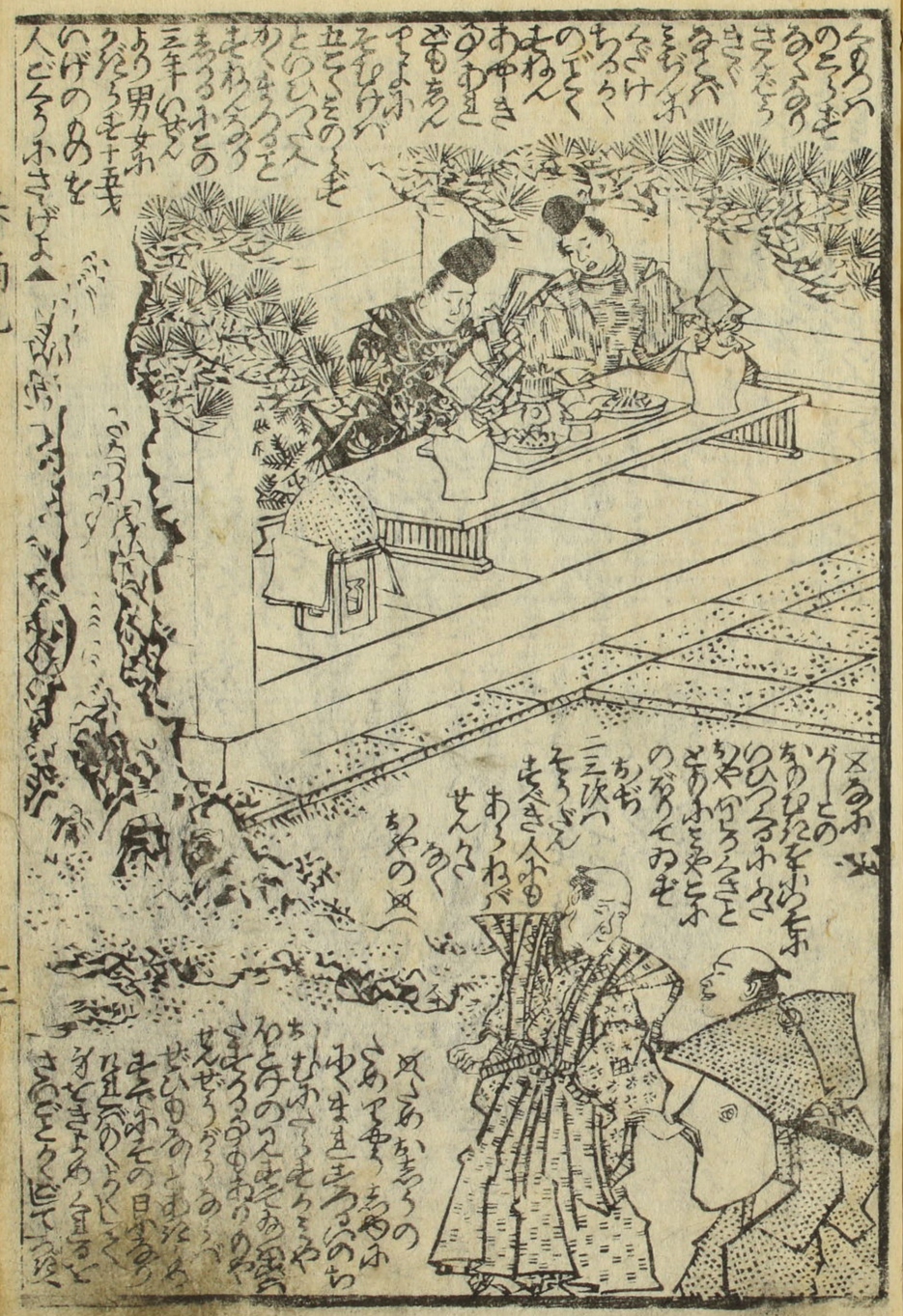
天神一代記圖會 中本一冊 柳下亭種員著 一勇齋國芳画

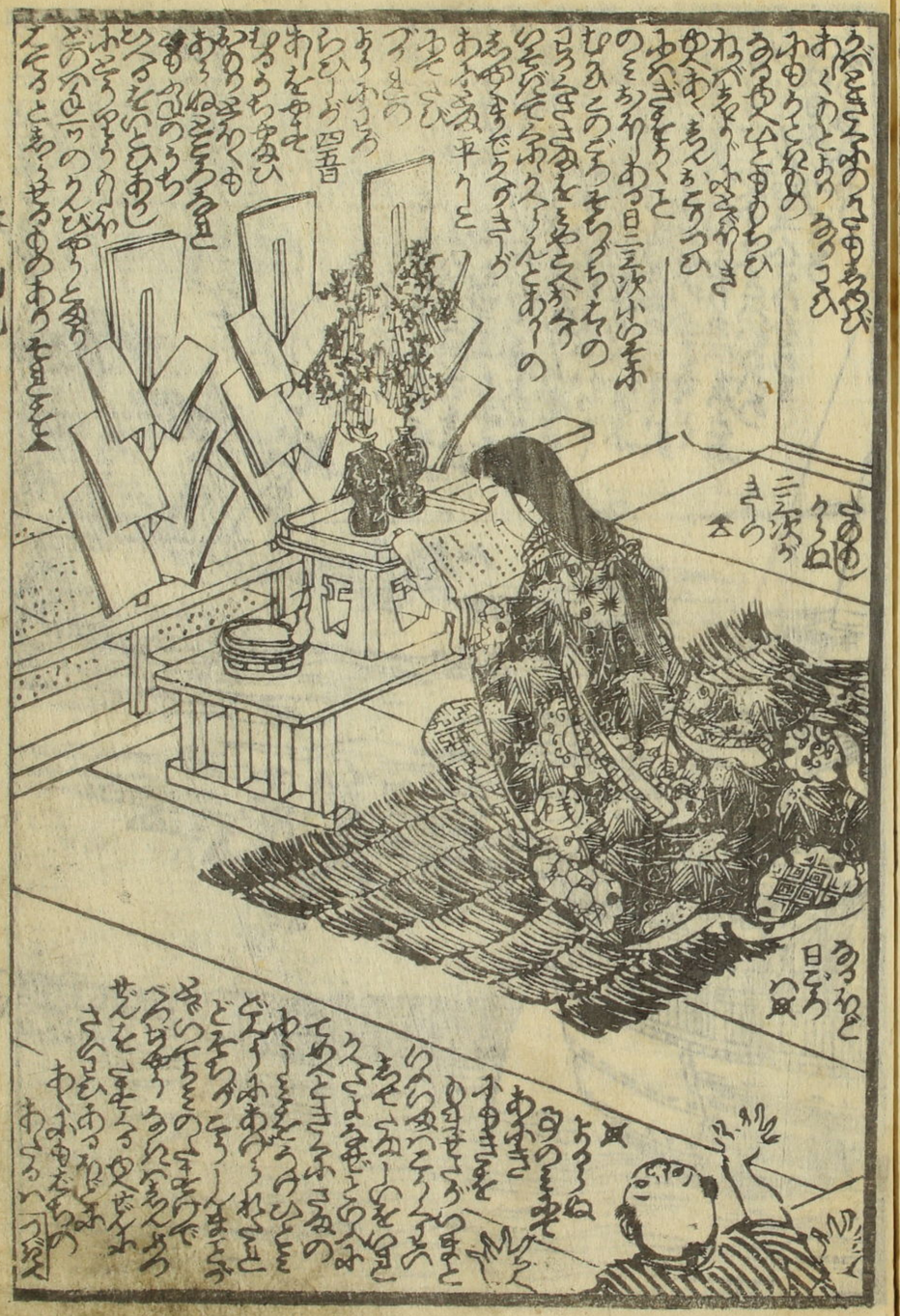
容色仙代萩 三編 一筆庵英壽作 一雄齋國輝画

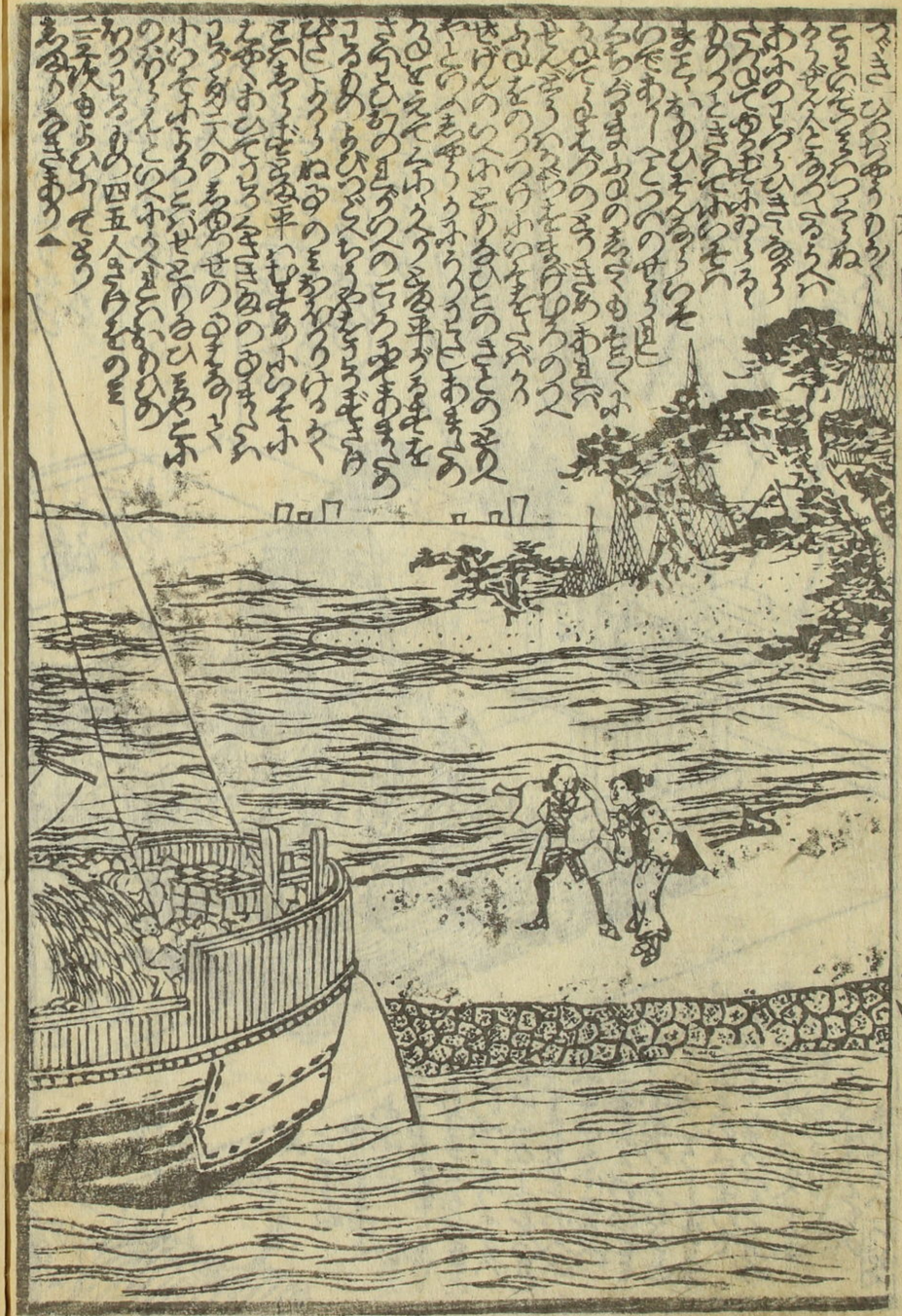
東都書房 馬喰町貳丁目 錦耕堂藏板

一遍齋豐國画
錦耕亭
九編下



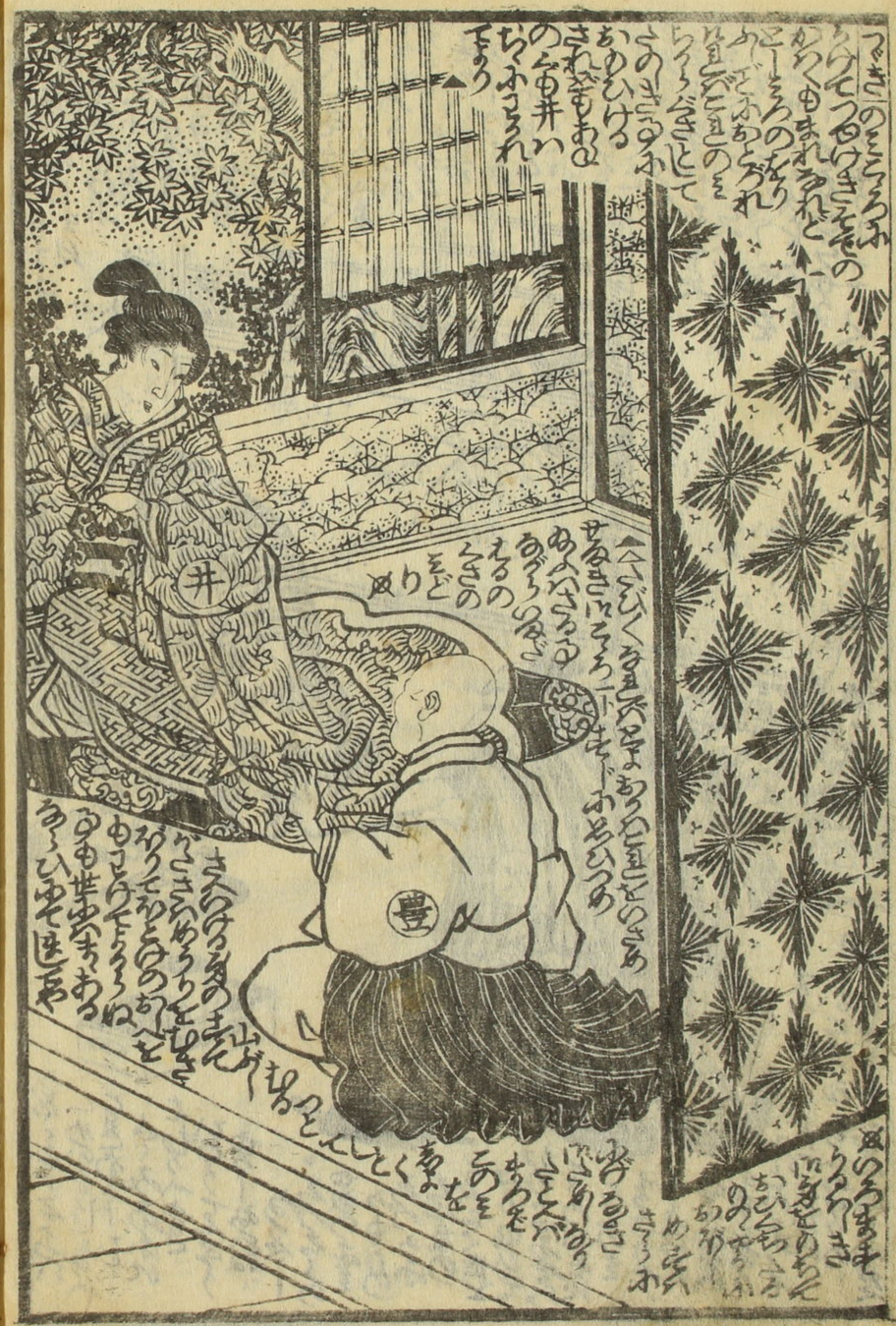


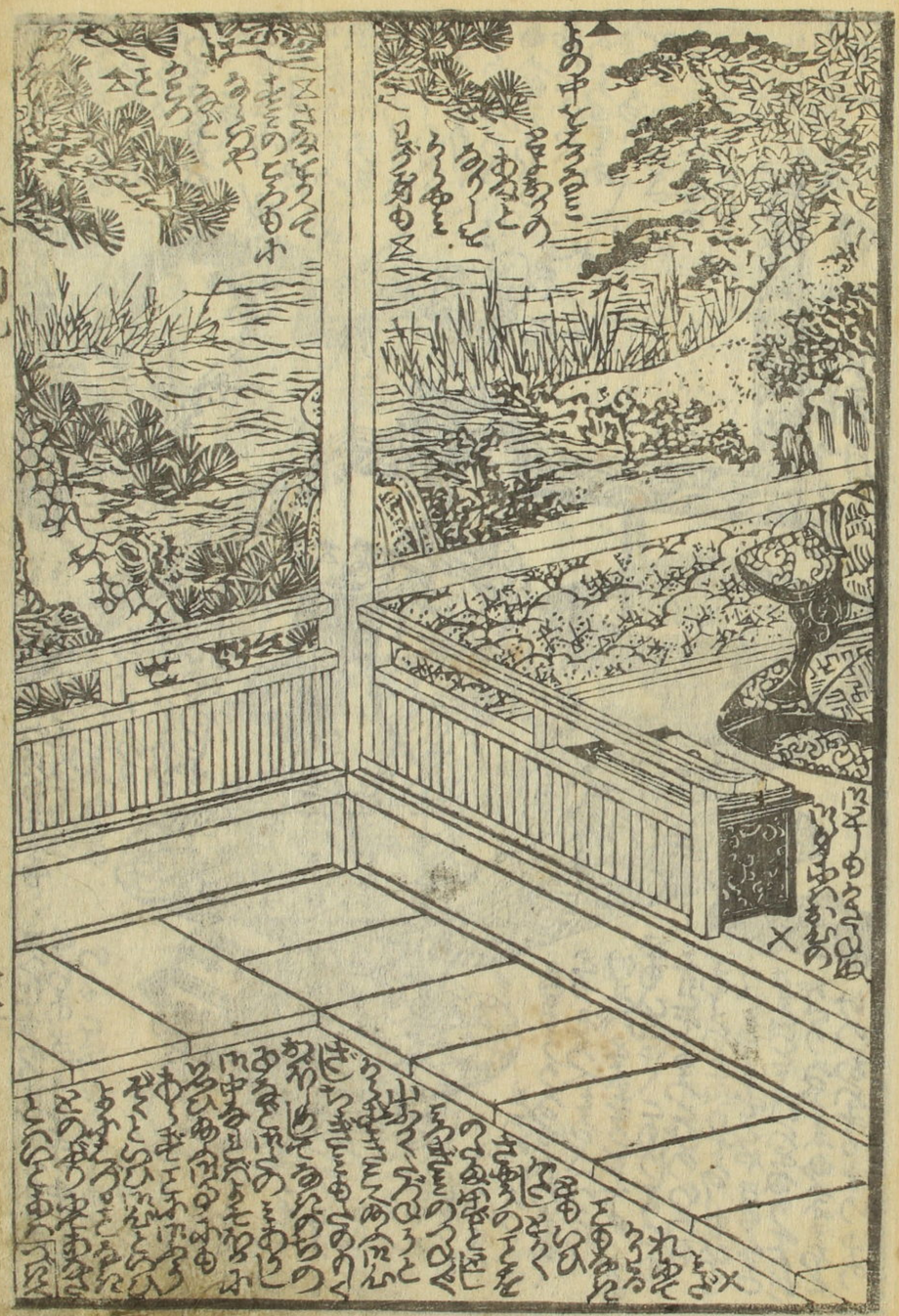




浪
笘

次


井
豊



阪東太郎後世譚 九編 西馬作 十編 貞秀画

俠銘鑑 三編 西馬作 四編 國輝画 肖像 水滸

岸柳四魔談 四編 同作 五編 國輝画

伊賀越仇討 樂亭西馬作 一鶯齋國周画

勧善懲悪 乘合噺 七編 柳下亭種員作 八編 一壽齋國貞画

詞花萱草紙 初編 墨川亭雪麿作 二編 一雄齋國輝画

江戸鹿子紫艸紙 二編 梅彦作 三編 豊國画

象頭山多宮日記 中本一冊 樂亭馬國輝画

今様八犬傳 七編 春水作 八編 國芳画 繪草紙問屋 東都馬喰町二丁目角 山口屋藤兵衛

參

應

四之